崔芝集

五

627
19
2

東京都立大学図書之印

027
19
2

芝

有賀なる山家八重なる寒し
貴き中小屋踏入

ほそ道に咲くも抱く火揮の　松尼
田也畑や山の寒り　ほそ道　卓池

雪の国　二月　雨

冬籠に根小屋もあるなる　士朗

時雨松笠もてと呼て来る　雪岡

いつまでも山の九さよほしきぬ　一之

三月初の早潮よぶる朝白帆　伯先

展茶崎を行過る山の姿ほしぬ
紫明人の絵の如くなる山の上に
清涼して茶清堂の つきの色雪梨

道さくさて佛ハうゆ鶯の鳴亀　士朗

生るもとすくふ幸福ふい仏の事　松尼

田切川は水あふれ増さる

小田橋の舟ハ影絵ホ　花叔

ほしもの干やほれしこの雲　山皐

青あし蔵木の上は新しく　如蘭

此二句春西宮の舟御覧

馬瓜ク原

尼　桐の花

家は松兄卓池の句あつさを忘れ
暗きう

若き人〳〵八州の花の京に住るも一歟
枝をゝり折ざるを先みて幸ひ又
ちるゝ事〳〵

春ハせぬそ根明〳〵みてをもしろ　士朗
時雨る形ひ〳〵雲ハ殘りけり　比桐　巨柳

遥望山寺

庭掃ハ小来ハ山〳〵と閑居皇　阜池
閑居多皇みやゝ〳〵もゝ　杉兒

弓多ゝ澤ハ飯田ゝ一里余丁
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝ出て

雲霧ハ垣ゝ川ハ　蕉雨
山路来て見るゝあゝ美柴ハ　巣兆
旅人と家ゝあゝゝ閑居皇　岳輪
変ゝ世ハ山ゝ柳春戸ゝ　李三
田植して朝霧ゝ小家ゝ　星巴

○有賀の浦にて北日記の花散り
筆ぶかしくとて白紙の何とう言へる
人の許より勉しき三月廿曲

○巣北渓河の偶田川より足袋をもちて来る
茶よいちもとめおかしなる

○笛輪上人の馬に鞍置て出羽の
屋張の国より三度さそひ来りぬ

巣にしの月の影寒

きせとも常とも知る人の
おそきはよい春の山里小
賞の言葉無ちしるを
ゆるし給る

卯月九日　八巣五人

四月十一日

大久保の地ふ園中の[illegible]の壽として
人も年ゑの初[illegible]とふことを題に
はつゝる書付て

雪ぬけの時雨をはこへほゝきす　士朗

とゝへハ

也為ふ人も年ゑ[illegible]ほとゝきす　松兄

又

菓樹ゑかるゝ[illegible]の白ひゞ　壷伯

古[illegible]の[illegible]と題して

其京也何ゝとハ云て苔の花　士朗

伏屋ゑ殘るゝ[illegible]の月　蕉雨

年ゑハめて愛も初ふゝ　岳輅

抱へてゐる七巻の紬　阜池

世の中ゑ梅乃白ひゑ盛ふ[illegible]　松兄

ほゝ[illegible]と春雨の降る　壷伯

忘れとはふとそおもへこんるる　尤誥

いさ見るもそれ　乙姫が宮　朗

紫が紫が着の雲ぬ寄そひ　雨

雲なかそんる君ゝ足跡　輅

年の内に春は来ぬ足馬が上　巣兆

いつ石ぬすそん福原がもと　兄

白砂の鼻ぬ月ぬ　池

雲ゝぬ青く着るそ　秋　誥

古ひとと住ぬ捨てる蛙が庵　伯

湖水のおもてぬ　兆

蛙ぬ　朗

蛙つゝおす一ぬ　雨

京ぬ薪が能なくすほて　輅

毋が機　嬉ぬ　池

篠がもとあちこちへ持せやり　兄

古ひとが蚊のいくとも　伯

有明の東ハ雲ゑ消ゆるて

小萩うもふ世ろ引る

諧朗

這ふ亀ゑ水り朝よも蔓ろ

定ゑ昭世ゑ毛るこゑ野

雨

風う吹くくゑ注めひ

轉兄

袴のおくゑ毛にもりゑ

池

大德寺ゑて四五町ゑ引ゑ

伯

ゆふ立ゑう一ゑんゑ

諧

魚くゑきゑ絵の上ふ浮ゑ

兆

水ゑくくゑて遊ゑる蛭のゑ

雨

ゑ毛ゑ岩陸ゑ分ハおく綱ゑ

朗

樹ゑ油ゑするゑかくこゑ

兄

ちくくゑ揺ゑゑゑ猫ゑ蛇

轉

ゑくきくゑ琴かせてやる

伯

飯田百負卷以

十日あとて又も一夢ぞ覚ける　土朗
こしの秋のあてる野山や　岳駱

大空のあのひろみなりぞ覚ける　素舟
山の雨のやはらかぞ覚ける　梅江
何ぞ月のゆかしやぞ覚ける　九鶴
こしの秋や後のうらの水白し　蛙村

ちるものとも淋しもあり　除苏

翔る雁の月の光のうつり来るもの
のもとゆかるもの　ハ　とうも

初夏ハほとゝぎす月や秋もまた　川女
馬の子乃ゑ〻数のひる早苗　槎軍
岡崎の橋より長き四月雨　凡室
卿も木もあて涼しや月の夜　汉三
すゝ[illegible]さに野の首巻す畠ゑ　龙諧

吸物

[illegible]

[illegible]　松兄

[illegible]

[illegible]　壺伯

吹[illegible]

賞ハ吹[illegible]て[illegible]　士朗

山[illegible]　阜池

一の滝

一の滝ハ水[illegible]

[illegible]　花叔

[illegible]　三都良

大平ヶ山中

賞[illegible]　士朗

と聞て国[illegible]

[illegible]　歪輪

晨[illegible]　蕉雨

霍芝集大尾

發八采賀之

紫兆英親

享和元辛酉年四月

書林　尾陽名古屋　永樂屋東四郎

琵琶園社中撰集書目

尾張名古屋東壁書房　永樂屋東四郎

雀芝集　此書を朱樹翁東方紀行の集なるを諸國より開板せるを　全一冊

春鶯囀　全一冊

梅蔵人　天老著　全一冊

法ゝ華経　全一冊

三日月集　白圖撰　少汝補　全一冊

麻苅　全一冊

秋風餘情　椿堂撰　全一冊

鳶乃眼　全一冊

人来鳥　青川撰　全一冊

むゝ合　全一冊

玉垣集　孔阜撰　全一冊

續赫夜姫　全一冊

草枕　素壁撰　全一冊

瓢日記　全一冊

松の炭　蕉雨撰　全一冊

橋日記　卓池撰　全一冊

庵の犬　野雀　五道　大藤　同輯　全二冊

うつゝ衣　也有老人述　狂文狂歌多をあつむ　全三冊

同後編　同上　全三冊

狂歌蓬ヶ嶋　三蔵樓大人選　春興狂詠　全二冊

狂歌頭の絲　同上　七夕の狂歌後人　全一冊

狂歌初日集　同右　狂詠角力会の発句を集む　全二冊

狂歌千歳集　同上　古今人物　狂詠を集む　全二冊

狂歌初心抄一冊　唐衣橘洲大人著　詠歌の名目を図きの名くを集む

狂歌才蔵集　四季とりどり　狂歌を集む　全二冊

俳諧歳時記　著作堂先生撰　全部二冊　此書は四季詠寄彩撰諸社神事佛會古事古歌をもくく載る事甚詳

同諸集訂誤　布頒翁著　全一冊

同夏たゝり　也有翁著　全一冊

たゝみのすゝ物語　宿屋飯盛大人著　全部二冊出来　此書は當世ばかりをおもしろく仮淡のうちあて尤興あるを

主文艶にして活拙巧物語の雅文まねもく絵入とふ　独学俳文雅文はまけよりも甚勝れるを多分

東京都立中央図書館
昭和26年9月21日